

1986(昭和61)年8月28日～31日

国際貿易センター西館(晴海)

- 『老人と障害者のための「国際保健福祉機器展・開発・普及フォーラム'86」』として、海外企業の参加を想定し出展製品を保健、リハビリ、在宅医療まで拡大した
- 特別企画「痴呆性老人対策」と「障害者の職業能力」をテーマにシンポジウムを開催、「先端技術と福祉機器」では20を超える大学、研究所などの先端技術活用機器、介護用ロボット、盲導犬ロボット、三次元車いすなどの試作実験機器を公開

主催 保健福祉広報協会

後援 厚生省、労働省、通商産業省、郵政省、東京都、全国社、会福祉協議会、参加各国大使館、国際社協日本国委員会

特別協賛 日本船舶振興会(補助金を海外企業の出展に係る経費の一部に充当)

来場者数 22,276人

出展社数 161社：海外10か国67社、国内94社

◆西館展示場 (国際規格小間：1小間3m×3m)



[第13回 ポスター]



斎藤十朗厚生大臣
来賓挨拶

▶ 1986年 長寿社会対策大綱
改正老人保健法公布

- **海外10か国67社出展**（内訳：アメリカ19、カナダ2、イギリス17、フランス2、西ドイツ6、オランダ10、ベルギー2、スウェーデン6、デンマーク2、スイス1）
- 海外の出展製品は老人や障害者の自立を支えるための車いす、階段昇降機、福祉車両などに注目が集まり、とくに車いすは機能性、デザイン性や素材も優れていた
- 海外企業出展製品は、東京税関から保税扱い許可を得て展示。医療機器カテゴリーに入って薬事法の許可を得なければ展示ができないケース、さらに日本の道路交通法の規制下ではスピードが早すぎて利用が制限される電動車いす、海外製ベッドや家具などはサイズが大きく、日本の和室での生活様式や住宅環境には適合が難しいといった課題も明らかとなった
- 海外コーディネーターに、マーク・K・パトリック氏（米・トランスエイド社社長）、マイケル・クレムソン氏（英・ナイデックス社専務）、リオ・クート氏（蘭・リニド社社長）、伊東弘泰氏（日本アビリティーズ協会事務局長）を任命し、出展の案内、情報提供などをはかった

日本はまだまだ後進国

初の国際保健福祉機器展 86
428日から4日間

世界各国では老人や障害者の自立のために、どんな機器が開発されているのだろうか。86国際社会福祉会議の開催にあわせ、わが国初の国際保健福祉機器展86（主催・財団法人保健福祉広報協会）が、二十八日から三十一日までの四日間、東京・晴海の国際貿易センター西館で開かれる。福祉産業ではわが国はまだまだ後進国。福祉関係者に先進欧米諸国の実情を見てもらい、高齢化社会に向かっている「刺激剤」にした、い、と主催者はいつている。

**海外10か国
67社が参加**

出展メーカーは国内九十二社のほか、海外からはアメリカ、欧州諸国、カナダなど十カ国六十七社。「国際・国内展示場」では各国のメーカーが開発した寝たきり老人用の入浴、寝具、トイレなどの介護機器、障害者のリハビリ訓練や車いすを含めた移動用機

入浴具から車いすまで
高齢化社会へ刺激剤に

オープニング・セレモニー レセプション

琴の生演奏、抹茶のサービス

静岡・社会福祉法人天竜厚生会ボランティア：生田流宮城会社中20人

◎抹茶碗提供

茨城・愛友園施設長 山口 晋氏、神奈川・中心学園施設長 加藤田政巳 氏らの作品、来賓や海外企業関係者にプレゼント

海外出展社ブースで通訳ボランティア

聖心女子大学学生の50人以上